

令和7年度 江戸川区立南篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考え 進んで学ぶ子ども 心身ともに たくましい子ども 明るく思いやりのある子ども きまりを守り 責任を果たす子ども 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 組織で動く みんなで動く 人を大切にする力 自分の考えをもつ力 自分の考えを表現する力 チャレンジする力 お互いが学び合える 相談し合える 互いを尊重し励まし合える教職員集団
前年度までの本校の現状	成果 令和5年度に実施した江戸川区教育課題推進実践校「子どもの言葉で創る算数授業の実践」を令和6年度は校内研究として引き続き取り組んだ。その成果として、担任が18人中9人異動者・初任者だったが、児童の思考を大切にしたい指導が行えるようになった。3学期には区の算数スタンダード公開授業も引き受け、他校の先生方にも成果を見せることができた。	課題	教職員一人一人の力はあるが、共有する時間を設けることが難しく、共通理解・共通実践を行うのには不十分なところもあった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○国語科を中心とした基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 個別・グループ・全体共有といった45分の授業の組み立て方の工夫 校内研究での実践 アンケートの実施 	・「自分の考えをすすんで表現することができる」「めあてをもち、すすんで学習することができる」でそれぞれ80%以上	B	A	B	校内研究授業等を通して、国語科を中心とした基礎学力の向上には動いている。 児童への学校評価中間アンケートでは、前者が70%、後者が71%肯定的回答だった。目標達成に向けて、児童が主体的に取り組む授業を展開できるよう、授業改善に励む。	B	学校側が立てた目標達成までには至っていないが、多くの子どもたちが前向きに学習に取り組んでいるので、引き続き頑張ってもらいたい。 保護者は理想が高いし、我が子を見て判断するから、教員と比較するのは難しい。	A	校内研究授業等を通して、国語科を中心とした基礎学力の向上には動いた。 児童への学校評価最終アンケートでは、前者が76%、後者が81%肯定的回答だった。中間評価の時よりも肯定的な回答が増えた。特に後者は数値目標を達成できた。教職員が授業改善に励んだ成果と児童の意欲向上の成果と考える。	A	学力が伸びる傾向にあることはよいことと受け止める。一方で、アンケートから「表現力」についての課題も見受けられるので、今後、表現することについても積極的に取り組んでほしい。	今年度は国語科に力を入れて取り組んだが、来年度は、他教科においても個人・グループ・全体共有の組み立てを行い、一層児童の主体性を育てる。
	○教師の授業力向上・指導法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を活用した授業の実践 アンケートの実施 授業観察 週案簿の提出 	・「先生の授業はわかりやすい」「タブレット端末を使って調べる・まとめる・伝え合う授業をしている」でそれぞれ80%以上 ・学期に1回実施 ・毎週月曜日提出	A	A	A	児童への学校評価中間アンケートでは、前者が88%、後者が79%肯定的回答だった。 管理職による授業観察を学期に1回はして、指導助言を行っている。 毎週月曜日の週案提出率はほぼ100%である。	A	先生方には多くの児童がいる中、日頃から子どもたちのために力を尽くして下さい、感謝している。	A	児童への学校評価最終アンケートでは、前者が94%、後者が85%肯定的回答だった。 管理職による授業観察を学期に1回はして、指導助言を行った。 毎週月曜日の週案提出率は年間を通してほぼ100%だった。	A	児童の学校評価アンケートで肯定的な回答が上がるのはすごいこと。先生方と子どもたちとの関係性がよいことも、繋がっていると思う。	具体的な取組内容に記載したことを年間を通して行った結果、教職員、保護者・地域、児童の3者から高評価を得られた。次年度も続けていく。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書科ノートの活用 発達段階に応じた問題を発見し、本を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに自らの考えをまとめ・表現する学習の実施 	・読書科コンクール提出率80%以上 ・「様々な本に親しみ、すすんで読書をしている」で80%以上	C	C	C	児童への学校評価中間アンケートは65%が肯定的回答だった。朝読書及び1単位時間の読書科の時間について、来年度に向けて再度計画を見直す必要がある。	B	子どもたちが関心を持てるような本の選書を慎重にお願いしたい。 漫画本からも学ぶことがあることを理解していただきたい。 電子書籍等も含めると評価も変わるのではないかと。	C	児童への学校評価最終アンケートは68%が肯定的回答だった。朝読書及び1単位時間の読書科の時間について、来年度に向けて再度計画を見直す。	B	本を通して身に付くこともあるから、今後も大切にしていきたい。 図書ボランティアさんとの連携もお願いしたい。	「読書科＝自由読書ではない」ことを全教員で共通理解し、再度、区が作成した読書科ノートや読書科指導要領を確認する。
体力向上	○個のめあてを明確にした授業実践	<ul style="list-style-type: none"> めあてカードの実践 アンケートの実施 	・「自分からすすんで体をきたえることができる」で80%以上	B	B	B	学校評価中間アンケートは74%が肯定的回答だった。GW明けから10月上旬まで暑い日が続く、外体育や外遊びができない日も多かった。	B	暑すぎる天候など、自然現象にはかなわない面がある。	B	学校評価最終アンケートは78%が肯定的回答だった。後期は持久走月間やなわとびウィーク期間に多くの児童がすすんで取り組んでいる姿が見られた。	B	最近気温の寒暖差が激しいが、外での運動や遊びをどんどん行ってほしい。	次年度、体力向上プランを作成し、授業を中心に体力向上を図る取り組みを行う。
	○運動に親しむ機会の実践	<ul style="list-style-type: none"> なわとびカード・マラソンカード等の活用 学期に1回、なわとび集会の実施 	・取組カードの活用率80%以上	A	A	A	具体的な取組内容に記載したことは実践できている。取組カードは全学年で使用しているため、後期も引き続き実践していく。	A	天候等も考えないといけない中、子どもたちが意欲的になるよう取組カード等を用意して下さい、感謝している。	A	年間を通して具体的な取組内容に記載したことは実践できた。取組カードは全学年で使用することで、共通理解共通実践につながった。	B	同上	天候等で予定通りに行えないこともあるが、児童の体調面を第一に考え計画を立てていく。
	○健康な生活	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して水筒の持参の推奨 暑さ指数のチェック お便りを通して連絡 	・月1回給食便りと保健便りの発行	A	A	A	具体的な取組内容に記載したことは実践できている。暑い時期は暑さ指数を確認し、外遊びの可否を毎回養護教諭が校内放送した。給食便りと保健便りも毎月発行している。	A	水筒の持参はいいことだと思う。 給食もおいしいと聞いている。	A	年間を通して具体的な取組内容に記載したことは実践できた。給食便りと保健便りを毎月発行したことで、児童の健康な生活につなげることができた。	A	インフルエンザの流行している中、インフルエンザによる欠席が少ない傾向にあることはすばらしい。日頃からの学校と家庭の健康管理の成果と言える。	水筒の持参は推奨するが、教室内の管理方法等は再度検討する。暑さ指数チェックやお便り配布は継続する。
実現に 教育の 共生	○人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業やなかよし班活動を通して、自分と異なる意見や立場の尊重 アンケートの実施 	・道徳の授業となかよし班活動はそれぞれ年3回実施 ・「誰とも仲良く遊んだり協力したりして仕事をするすることができる」で80%以上	A	A	A	週1時間の道徳の授業や道徳授業地区公開講座等を通して、児童に互いの立場を尊重し合えるような授業を実践している。 学校評価中間アンケートでは84%が肯定的回答だった。 なかよし班活動も年間計画に沿って行っている。	A	多様化が進む中、目標達成はすごいこと。今後も大人も子どもも一人ひとりを大切にできるように。	A	週1時間の道徳の授業を全クラス確実に行うことに努めた。児童に互いの立場を尊重し合えるような授業実践を行った。 学校評価最終アンケートでは87%が肯定的回答だった。 なかよし班活動も年間計画に沿って行えた。	A	多様化が進む中、大きな嫌がらせやいじめ等の話を聞かない。安心して子どもや孫を通わせたり、見守ったりできる。	道徳の授業やなかよし班活動に加えて、教育活動全体を通して、児童に多様化のことや一人ひとりの性格や考え等を尊重する態度を養う。

社会の 向けた 推進	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルーム対応を全教員で分担し、学校全体で支援体制を整える	・分担表を作成し実施率100%	B	B	B	分担表を作成したり、対応の仕方を確認したりしているが、実施率100%には至っていないので、共通理解共通実践を目指す。	A	引き続き個に応じた対応をお願いします。	B	分担等は行ったが、実践面や負担面等を考えると、一部の教職員に偏ってしまった傾向があった。	A	引き続き個に応じた対応をお願いしたい。	校内の教職員だけで対応するのではなく、エンカレッジサポーター等の外部人材と連携して行う。
	○副籍交流の実施	・都立鹿本学園及び対象家庭との交流の仕方の打ち合わせに応じた実施	・各学期1回以上の実施(交流方法は各々異なる)	A	A	A	コーディネーター、都立鹿本学園及び対象家庭の三者で連絡を取り合い、計画的に実践している。	A	人権尊重の面からもこのような交流はいいこと。交流や学び合いがプラスに働いてほしい。	A	コーディネーター、都立鹿本学園及び対象家庭の三者で連絡を取り合い、計画的に実践できた。	A	作品発表会でも関わりがあったのはよかった。引き続きお願いしたい。	交流を通して、児童は一層思いやりの心が育った。次年度も関係機関と連携して実施する。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校未然防止	・SCやSSW等の関係諸機関との連携 ・生活指導夕会で担当や担任からの報告	・理由不明の欠席が0	B	B	B	SCやSSW等の関係諸機関と関わっているが、連携の点では改善が必要な点もある。生活指導夕会での情報共有や理由不明の欠席家庭への電話連絡および家庭訪問は実践できている。	B	不登校児童が一人でも減るように引き続きお願いします。	B	SCやSSW等の関係諸機関との連携は前期と比較すると、共通理解をもって取り組めた。生活指導夕会での情報共有や理由不明の欠席家庭への電話連絡および家庭訪問は年間を通して実践できた。	A	中学校の進学先に関しても一人ひとりを大切に。実践については引き続きすすめていただきたい。	年度初めにSCやSSW等との連携方法を確認し、共通理解共通実践を目指す。
	○いじめ未然防止	・アンケートの実施 ・年3回、いじめ等に関する道徳授業の実施	・「友達の失敗を励ますことができる」「いじめ等があった時は先生に相談することができる」各々が80%以上	B	B	B	年3回の道徳授業の実施に加え、必要に応じて、朝の会や帰りの会等でも、いじめは許されない行為ということ伝えていく。 学校評価中間アンケートでは前者が86%、後者が77%肯定的回答だった。	B	たくさん子どもたちがいるから、把握等で難しい時もあるかもしれないが、不登校と同様に、引き続きお願いします。	B	年3回の道徳授業を実施する際は事前に週案に赤字等でわかりやすく表記し、他の教員も時間がある際は参観できる体制にした。 学校評価最終アンケートでは前者が89%、後者が76%肯定的回答だった。	A	大きな嫌がらせやいじめ等の話を聞かない。不登校未然防止と同様に引き続きお願いしたい。	ささいなことを見逃さないことや、何かあった時の対応方法等を年度初めに確認をして、いじめ未然防止に努める。
	○一人一台端末を用いた心の健康観測	・L-Gate「毎日の記録」の実施	・実施率90%以上	A	A	A	2～6年生は6月より始めた。夏休み最後の1週間も実施してスムーズに2学期が始められるようにした。 1年生は9月から始めた。	A	一人一台端末を授業以外でも活用してすばらしい。	A	児童はL-Gate「毎日の記録」を行う習慣が着いた。担任等も毎日確認する習慣が着いたので些細な変化にも気付くことができた。	A	学校評価アンケートからは、子どもたちはタブレットの使い方もトラブルなくできていることがうかがえる。SNSトラブルもないのは、先生や保護者がよく見ているからだと思う。	今年度は年度途中からの実施だったが、来年度は2～6年生は4月から実施する。
学校(園)の地域社会に開かれたの実現	○学校公開、保護者会、個人面談、運動会、展覧会等学校行事への参観	・1か月に1回程度学校に足を運ぶ機会の設定 ・アンケートの実施	・「日頃の教育活動の様子などについて保護者会や学校たより等でわかりやすく伝えていこうと思う」で80%以上	A	A	A	具体的な取組目標に記載したことは実践できている。学校評価中間アンケートでは81%が肯定的回答だったので、公開や保護者会等の中身を充実させさらなる向上を目指す。	B	昔より保護者は学校との関わりが薄くなってきているように感じる場面もあるので、保護者の方々には1回の機会を大事にしていきたい。	A	年間を通して具体的な取組目標に記載したことは実践することができた。学校評価最終アンケートでは80%が肯定的回答だった。	B	コロナ以降、保護者も学校への関わり方が変化してきている。学校には保護者にさらに広く、学校全体の児童の様子に目を向けていただけるような工夫や働きかけをしてほしい。	引き続き1か月に1回程度学校に足を運ぶ機会を設定する。 保護者アンケートの回答率が高まるよう、リマインドメールを送る。
	○学校ホームページやtetoru配信の充実	・学校ホームページを定期的に更新 ・学校便りと学年便りを1本化してtetoru配信	・学校日記は週2回程度更新を行う。 ・お便りのtetoru配信は2学期から毎月実施	A	A	A	学校ホームページはほぼ毎日更新している。 学校便りは9月からtetoru配信している。学校便りと学年便りの1本化は10月より始めた。	A	保護者が学校に足を運ぶ機会が少なくなってもHP等で様子がわかることは助かる。	A	学校ホームページは毎日更新することができた。10月から始めた学校便りと学年便りの1本化して配信することは定着した。	A	学校たより等を通して、早めに行事などの情報を伝えて下さるのは非常に助かる。引き続きお願いしたい。	ホームページの更新を行い、児童の様子を保護者に伝える。tetoru配信の内容を精査して配信する。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、評議員、教職員へのアンケート調査の実施	・アンケートは中間と最終の年2回実施 ・児童と評議員、教職員は100%実施 ・保護者は80%以上の提出	C	C	C	アンケートの実施は行ったが、回答率は教員96%、保護者58%、児童94%と、いずれも目標達成には至らなかった。2回目実施の時は実施期間にゆとりをもったり、アナウンスをこまめに行ったりする。	B	1回目の学校評議員会の時もこの紙を見せてくれて、具体的に説明してくれたので、学校の取組等がわかる。	C	アンケートの回答率は教員82%、保護者50%、児童83%と、いずれも目標達成には至らなかった。教員と児童に関しては、記名式にすることで、実施していない人に対して個別に声掛けができるので検討する。	B	保護者の学校関係者評価の回答率50%を上げたい。共働き等が増えて忙しかった家庭に対しても、一層魅力ある学校作りを期待する。	アンケートを年に2回実施する。中間評価は後期に生かし、最終評価は次年度に生かす。
特色ある教育の展開	○働き方改革の推進	・年休等を取得しやすい職場環境 ・見通しをもった仕事の実践	・年休取得15～20日程度の教職員が80%以上 ・毎月の時間外勤務45時間以内が90%以上	B	B	B	年休取得はほぼ全ての教職員が年間を見通して、計画的に取得できている。時間外勤務45時間以内を90%以上の教員が達成できたのは6月のみだった。SSS等の効果的な活用を推奨し、事務的な業務を中心に教員の働き方改革を後押しできる職場環境にする。	B	先生方が多くの時間、サービス残業をしている状況を、知らない保護者が多いと思う。当たり前に年休を取れるような環境になっていただきたい。	B	年休取得15～20日程度の教職員は73%だった。毎月の時間外勤務時間は学期末や行事がある月などは多かった。	B	先生方が気兼ねなく休みを取れる状況にするには、地域や保護者の方にも学校の状況を知っていただきたい。	生成AIを活用した校務の見直しや教育効果の高い行事を精選する等、より効率的な学校運営を行い、働き方改革を推進していく。
	○金管バンドや三味線等の取組	・金管バンドや三味線の活動を通して本校の伝統文化の継承を進める ・ホームページ等で紹介	・学期に1回、学校便りやHP等で紹介する。	B	A	B	本校の教員に加えて、外部講師にも依頼して、金管バンドと三味線に取り組んでいる。	B	外部の方とも連携して子どもを育てるのはいいことだと思う。	A	金管バンド、三味線共に年間計画に沿って練習や発表等を行うことができた。	B	引き続きお願いします。	金管バンドクラブに新たな外部講師を任用する。
	○科学教育センター、農園活動、図書ボランティア等と連携した教育活動の実施	・科学センター：4～6年生の希望者を対象に実施 ・農園：低学年を中心に植物の種まき、麦の脱穀等 ・図書ボラ：朝の読み聞かせ、本の紹介等	・「学校に関わる地域の人とから様々なことを教わったり活動したりしている」で80%以上 ・学期に1回、学校便りやHP等で紹介する。	C	B	C	学校評価中間アンケートでは保護者が59%、児童が56%肯定的回答だった。科学センター、農園、図書ボラ、いずれも充実した活動を行っているが、周知等の面で不十分だったと思われる。掲示物やお便り等で全体に発信し、活動の様子を広めていく。	B	外部の方と連携して子供を育てるのはいいことだと思う。多くの方々が周知するよう、引き続きお願いしたい。	B	学校評価最終アンケートでは保護者が62%、児童が66%肯定的回答だった。目標達成とまではいかなかったが、中間評価の時よりも肯定的な回答が増えた。今後も掲示物やお便り等で活動の様子を広めていく。	B	学校評価アンケートからは、肯定的な回答が保護者も児童も低いと感じる。出前授業でも「地域の人が関わっている」ということを児童が意識できるよう工夫してほしい。	次年度も農園ボランティアや図書ボランティアに協力していただき、本物に触れる、関わることで児童の豊かな人間性を育む。